

序

生涯教育の考え方が、わが国に紹介されてからすでに、10年余りの歳月が経過しました。その間、国をはじめ本県でも生涯教育の必要性を唱えております。

国においては、社会教育審議会や中央教育審議会の答申の中で、今後の教育は生涯教育の観点に立った教育の推進が問われております。

本市教育委員会としても、社会環境の急速な変化の中で、今後の社会における人間形成上の重要な問題として、いわゆる生涯教育の立場から、家庭教育、学校教育、社会教育それぞれにおける教育の役割及び、その有機的なかかわりを明らかにするとともに、教育全般を統合した長期教育計画の実施の見通しを明らかにする必要を痛感しておりました。

そこで、昭和51年9月16日付で、足利市教育目標設定委員会に対し、従来の「足利市教育の一般目標」を再検討し、生涯教育を指向して、今後の教育課題に対応できるような「足利市の教育目標」設定についての諮問をしました。

以来、5年間にわたり、基礎研究をはじめとして、第1次調査、第2次調査、中間発表会、中間報告会、各種の面接調査、公聴会、意見を聴く会等の実施結果をもとに、我が国でも他に類をみない、生涯教育の立場に立った市民参加による「足利市の教育目標」のまとめを、目標設定委員会委員長から答申していただきました。

これについては、1月の定例教育委員会で正式に「足利市の教育目標」として設定をし、市議会関係に報告いたしました。今後、この目標が行政の諸施策に生かされるとともに、市民一人ひとりの生活の中にも生かされることを切望してやみません。

おわりに、この「足利市の教育目標」づくりにあたり、貴重な示唆と御指導をいただきましたお茶の水女子大学教授河野重男先生、東京工業大学助教授新井郁男先生をはじめ、目標設定委員会の委員各位、各種調査に御協力いただいたり、貴重な御意見をお聞かせいただいたりした多くの市民の方々に、心から感謝の意を表しますとともに、今後とも、この「足利市の教育目標」を市民の皆様のものとして実践していただけるよう、一層の御協力をお願いする次第であります。

昭和56年 1 月

足利市教育委員会委員長 秋 草 好 郎